

平成22年度各務原市産業振興懇談会について

各務原市産業文化部商工振興課

平成23年2月21日、各務原市産業振興ビジョンに基づき進めている産業振興の現状と今後の方向性について、有識者による意見交換を行いました。要旨は以下のとおりです。

各務原市産業政策、産業振興ビジョンについて

- ・ 各務原地域は県内でも有数の工業地域であるため、今後とも様々な事業を積極的に進めていくべきである。
- ・ ビジョンにおけるアクションプランを推進する上で重要となるのは「企画力」、「事業化及び事業展開のスピード」、「宣伝」であり、これらを強化していくべきである。

ものづくり活力の強化について

- ・ 韓国の企業に勢いがある。韓国に学ぶとか、韓国企業との連携について提案をするなどしていくべきである。
- ・ ものづくりの都市として、どのような環境整備を行っていくかは重要であり、地域住民とも協力して行っていくべきである。
- ・ 日本のもものづくりの技術をさらに磨き、海外も視野に入れた他業種企業とのマッチングも積極的に行うべきである。

サービス産業の革新について

- ・ 飲食などサービス業の強化を図るため、市内の一部地区をモデル化することを考えてみてはどうか。

交流の拡大によるにぎわい創造について

- ・ 観光が「点」から「線」に移りつつあり、各務原市は既に広域観光として様々な事業を行っているが、更に広げていくとよい。
- ・ 各務原キムチが世間の注目を浴びている。これを活用した産業観光ツアーなどを企画し、このチャンスを活かしていくことも重要である。

「人財」育成の推進について

- ・ NPO法人やその活動のPRあるいはボランティア団体をコーディネートする人を育成・啓発するための事業などは、継続的に行っていくべきである。

多様なネットワークの形成について

- ・ 自治体がソーシャルメディアを使えば、市民の合意形成や市のPRの1つの手法として活用できるのではないか。

かかみがはらブランドの確立について

- ・ 各務原市がNHKのドラマに取り上げられたことは、またとない機会であり、シティセールスの1つとして積極的に活用すべき。
- ・ 市内で「各務野やさい」を含め様々な農作物の生産から販売まで行うなど、「地産地消」を進めていくとよい。
- ・ 航空宇宙科学博物館を中心に、航空機のメッカとしての都市を作っていけるとよい。

以上